

地方創生2.0KPI検討会（第2回）議事要旨

日時：令和7年11月13日（木）14時00分～15時00分

場所：中央合同庁舎8号館6階623会議室

＜ロジックモデルについて＞

- 3つのインパクトのヒエラルキーはどのように表現されているのか。
- 3つのインパクトはヒエラルキーだという考え方には疑問がある。3つは循環するものであるという考え方もあるのではないか。
- 日本経済を立て直すためには人材育成が極めて重要であると考えている。強い経済のアウトカムに人材育成が出てくるべきではないか。
- 人材育成の中には、高等教育やその前段階の教育のほか、職業教育やリスキリングのような形の教育もあると思う。このロジックモデルの中でどこに何を盛り込むかということを御議論いただきたい。

＜KPIについて＞

- 粒が小さいKPIが多くなってしまうと、国民にとってわかりづらいものになるのではないかと思うので、KPIのボリューム感について考えながら作業を進めていただきたい。
- アウトカムに関するKPIは限定するべきであり、全体で10指標程度ではないか。
- 「豊かな生活環境」と「選ばれる地方」のインパクトの指標とアウトカムの指標に重複感がある。またアウトカム指標の中には非常に細かくアウトプット指標にすべきものも含まれている印象がある。インパクトは全体を束ねるような、端的に言えばスローガンとして設定し、アウトカムの実現にこそ力を注ぐべきだと考える。
- 本年6月に閣議決定した「地方創生2.0基本構想」では「楽しい日

本」ということが掲げられていたが、「楽しい」をどのように評価するのか。また、地方におけるアンコンシャス・バイアスも取り上げられていたが、他にも地域への郷土愛や誇りなどについて、どのような指標やKPIに落とし込んでいくかについては工夫が必要。

- アンコンシャス・バイアスは国の施策というよりは、地方公共団体や企業が取り組む話であるため、今回のロジックモデルが国の施策を整理するものであれば、指標の設定は難しいと考える。
- 関係人口について、地域への関わりの濃淡について指標を設定すべきではないか。

＜その他＞

- 若者が地域に良い印象を持ち、魅力を感じるためには、その地域にどのような人材がいるかということが重要なのではないか。
(以上)